

第 59 号
平成 25 年
10 月号

HP に 創刊号から
連載中

もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意
深く徐々に試してください。

山田整骨院
熊本市中央区出水 4-25-1
096-364-7611

<http://yamadasu.com/>

熊本交通事故, 山田整骨院

<http://www/jiko-kumamoto.net/>

悲惨な眼の火傷が究極の治療法で奇跡の回復

医学博士 土本 重 昭和 42 年 1 月号 月刊西医学

眼の火傷

今から 4 年前の話である。私の家のお手伝い婆さん（68 才）が病院の炊事係が一人休んだので、その代わりに炊事を手伝うことになった。元来私の所では患者に玄米食を出している関係上高圧釜を使用しているが、この日、自分で勝手に炊事の手伝いに出て来た小使いさんが、何を感じたのか、玄米を炊いている高圧釜から湯気が出始めたのに驚いて、手拭いで湯気の出口を塞いでしまった。そのために釜の内部の高圧は一段と上昇し、突然に高音を発して釜の蓋が一気に天井を突き破ってどこかへ飛んでしまった。この時すぐ前の水洗い場で後ろ向きになって茶碗類を洗っていた婆さんが、この怪音にビックリして後ろを振り向いた拍子に釜内で煮え切った灼熱の玄米粒が数十粒両眼に飛び込み、眼を火傷するという惨事を引き起こした。又小使さんの方は、その両手の前膊内側の皮膚が剥れて真皮や筋肉が露出し、劇痛のため、もがき苦しみました。早速現場に飛んで行った私もこの有様を眺めて暫し呆然としたけれども、処置は一刻を争うほど重大であって、何時までもボンヤリすることは許されない。

私は即座に二人に五日間位の断食をするようにすすめて後に、小使さんの方は痛がるのを宥めすかしながら、水でよく負傷の箇所を洗って後皮膚をクツクツケて包帯し、一日に 3～4 時間ずつ両手の毛管運動をやらせた所、劇痛は毛管運動開始後一時間以内に全く消散し、四日を出ずして負傷箇所は完全に治癒してしまった。

一方婆さんの方は痛い痛いと言きながら、自分で眼を冷やしていたが、私は近所に開業している広島眼科医界の名医 87 歳の三宅良洲先生の所に婆さんを伴って一応受診させることにした。三宅先生は巧みな手つきで両眼から玄米粒を 16 箇所ほど洗い出して日独混合の医学術語を交えつつ、診断の結果を語られた。「老婆の眼は火傷の結果恐らく失明を免れないであろう。又、眼球の後方の眼窩内に飛び込んだ玄米粒を取り出すことはできないので脳炎を起こす心配がある。全く以て土本先生も大変な災難を引き受けられたものであって、御気の毒に堪えない」と老婆よりも、責任者である私の方に深い同情を寄せられた。婆さんも二人の会話によって病気の大体の様子をウスウス感じていたようであるが、土本先生は西式によって必ず治して下さるという信念をもっているから、

私の病院に帰ってからも三宅眼科より貰った薬を全部棄て去って、私の言う通りにする故治して下さいと懇願した。それ故失明するか否か、脳炎を起こすか否か、総てが私のやる治療法に重大な責任が、かかってきた次第である。私も神に祈る心地になってこの老婆の治療に当たる決心をした。私がこの人に断食をさせたことは前述の通りであるが、私は更に頭部の毛管運動をさせること一日に十時間位に及んだ。この法によって眼球の後ろの眼窩内に飛び込んでいたと思われる米粒が毎日毎日十数粒ずつ出てきて、四日目よりはこの米粒も全然出て来なくなった故に、これで眼窩内に残っていた玄米粒は全部外に出てしまったものと思われた。最初に三宅先生に取り出して貰った分と合わせると全部で64粒に及んだことになる。そのためであろう、玄米粒の腐敗によって惹起こされるであろうと心配されていた脳炎の危険は全く去ってしまったわけである。又、この婆さんは断食5日目には、断食をこれ以上続けられぬと泣き出したので、私も断食を中止させたが、この時には老婆の両眼の火傷は完全に治癒して、受傷の痕跡もない位に綺麗な目になっていた。それでも私は念のため頭部の毛管運動をさせ(但し5日目から1日に2時間位)第8日目に三宅老先生の所へ連れて行って再診を乞うことにした。三宅先生も、これは完全に治っている、土本先生も思い切った治療をされたものであると激賞せられたので、私も多大の面目を施して帰ることができた。以下略

解 説

土本先生は東大医学部卒で、昭和34年の東京医事新誌に心臓はポンプ?のタイトルで投稿されています。

本編には非常に重要な事柄が報告されています。まずは手の火傷の治療です。水でよく洗って清潔にする。剥がれて直ぐの皮膚をくっつけることは、まだ皮膚は死んでいなくて、元の所に貼りつけて包帯固定をすれば、皮膚は元どおりになって生き続けるということです。1日3~4時間の毛管運動で激痛がなくなり、4日で治ったということは凄い一言です。毛管運動、すなわち動静脈吻合という特殊血管を働かせれば、急速血液循環が生じ、化膿せず、痛みが消え、細胞の新生が促進されるということです。火傷でケロイドになるのは感染防止のための薬物消毒が皮膚の細胞を殺してしまうということで、現在火傷を消毒しないで治す運動をしている団体があります。

次に眼の火傷に頭部の毛管運動を1日に10時間させたことです。頭部の毛管をするということは、急速な血液循環により目及び目の回りの軟部組織が収縮するという事で、余計な物が押し出されるということで、実際に米粒が押し出されて、出て来たということです。(戦時中体に食い込んだ銃弾も毛管運動で出て来た報告があります)このような非常の際には、10時間位徹底的にしなければいけないということです。病気や怪我の非常時には、出来る限り徹底的にやらないと治療にはならないということだと思います。病気予防や健康法とは全然レベルが違うということです。今回の報告は毛管運動の凄さを知っていただくいい機会となりました。